episode.10

# 地元に愛され続ける尾之間温泉

話し手　「尾之間温泉」管理人
岩川 通孝（いわがわ みちたか）さん（昭和 25 年 9 月 13 日生）

聞き手　鹿児島県立屋久島高等学校 1 年
森　優羽　　伊藤　亜貴
宮崎　ひより　森　つばさ
白井　麻央

## 「屋久島の温泉のエピソード」

私は岩川通孝といいます。現在、尾之間温泉の管理人です。

尾之間集落の温泉についてこんな逸話があります。「400 年近く前に地元の猟師が傷を負ったヤクシカが泉に座り込み傷を癒しているのを見つけて、その泉は温かい温泉であったというのです。」

## 「尾之間温泉の始まりと、これまで」

尾之間温泉の管理を始めて 30 年以上になります。旧屋久町時代から続いています。昔は青年団が運営しておりましたが、団員数が少なくなってきたため管理人を決め、専用の家を建て、住み込みで働いてもらうようになったのが始まりです。現在は私達夫婦で運営しています。

尾之間温泉は女風呂、男風呂にわかれており、浴槽も大きめとなっています。昭和 50 年代に 2 階建ての温泉に建て替えられました。しかし長くはもたず、平成 6 年に集落林の杉の木を切ったり、杉の皮をはいだりして集落のみんなが協力して建て替えなおしたものが今の尾之間温泉です。

外にある足湯は平成になってから作られたものです。

温泉で使われている玉石は尾之間で別名「目目石（めめいし）」といいます。目目石は青黒く小さい石ころで、尾之間温泉は目目石の間を通って湧いてきます。尾之間の浜でとることができます。コンクリートよりも肌触りがいいだろうと思い、尾之間区民総出で協力して運びました。

## 「尾之間温泉の現在」

コロナの影響でだいぶ利用客が減り、コロナ前は 1 日 250 名くらいでしたが、現在では 150 名程度です。尾之間温泉は、子供から大人まで幅広く利用されています。冬は寒いため男女ともに利用者が多くなります。観光客から得た収入は、管理人である私と集落に充てられます。

仕事をする上で大変なことは、働く時間が朝の 6 時半～夜の 11 時半までと、とても長いことですね。合計で約 17 時間です。妻と二人で管理しているので一日ずつ交代で協力しています。

## 「尾之間温泉は可能性のある宝物」

温泉を運営する上で工夫した点は、足が痛いという声があったので、足場をコンクリートからタイルに貼り替えたことですね。大切なことはお客様の声をいかに拾い上げるかです。意見箱というのを設置していますが、管理人がお客様とコミュニケーションをとることに重点を置いています。

また、いかに清潔にお客様に使ってもらえるかも大切です。温泉の魅力は、憩いの場であって、コミュニケーションをとりたくさんの情報を得ることができることが一つです。昔は集落の全員が使用していました。仕事などで疲れた体を癒すことができることも魅力です。今はそれに加えて、観光客に心のおもてなしができることも尾之間温泉の良さです。尾之間温泉は、私達にとって宝物でどこに出しても恥ずかしくないです。お金だけではなくて色々な意味での宝物です。これからもっと素晴らしくなる可能性のある温泉だと思っています。